

シュロス リーザー 訪問情報

<http://www.inaba-wine.co.jp/blog/staff/4-7.html>



- ☆ 何故、入社したばかりの森本展弘にとってリーザーは特別の存在、憧れとなったのか？
- ☆ トーマス ハークは、どうして父の後を継いで「フリッツ ハーク」に入らず、ぼろぼろの設備のシュロス リーザーでワイン造りを始めたのか？
- ☆ リーザーの '08 年は、V.D.P.のオークションでも高い評価を得たが、'09 年の出来はどうか？
- ☆ '09 年の Q.b.A.とカビネットのラベルは、どこが変わったのか？それは何故？
- ☆ 今回ご紹介のワインを選んだ理由は？

これらの疑問が、すべて稲葉通信「シュロス リーザー訪問情報」の中で明らかにされています！！

※でも、ブログを開くまで待ちきれないという「せっかちな」皆さんのために、次ページに上記の疑問への答えをご紹介します。。。

リーザーファンを自認する森本の今回のおすすめは、以下の 5 点です！！

'09VTの Q.b.A.とカビネット

シュロス リーザー リースリング ケーペーアー			
K-718 2009 Schloss Lieser Riesling Q . b . A .		¥2,310 (本体価格 ¥2,200)	
《白》【やや辛口】	生産者:シュロス リーザー	葡萄品種:リースリング	残留糖度:23. 2g/l 酸度:7. 9g/l
緑がかった照りのある黄色、青リンゴやグレープフルーツを思わせるすがすがしい芳香。しっかりとした上品な酸味が、葡萄の持つ甘味と素晴らしいハーモニーをみせています。コシもあり、非常にバランスの良い飲み応えのあるやや辛口仕立ての洗練された味わいです。 〔スクリュエキャップ〕			
'09 年が、「ワインスペクテーター2010.12.31」で 88 点。			
スモーキなアロマの中に、スレートやミネラル、レッドピーチ、そしてスパイスのフレイバーがある。オフドライなフィニッシュには、グースベリーや黄色いプラムのノートが広がる。飲み頃は今から 2013 年。 88 点 「ワインスペクテーター 2010.12.30」			

シュロス リーザー リースリング カビネット			
K-719 2009 Schloss Lieser Riesling Kabinett		¥2,835 (本体価格 ¥2,700)	
《白》【甘口】	生産者:シュロス リーザー	葡萄品種:リースリング	
残留糖度:55. 5g/l 酸度:7. 7g/l			
柑橘系の果実のようなフレイバーが豊かに広がります。とても濃厚、ジューシーで、かすかにクリーミーな味わいを感じさせるボリュームあるカビネットです。さすがフリッツ ハーク家の長男の造るワインだけあるとうならせるほど、絶妙なハーモニーを見せてくれます。〔スクリュエキャップ〕			
'09 年が、「ワインスペクテーター2010.11.30」で 92 点。			
パワフル、はっきりと分かるミネラルが支配するフレイバーの中に、たつぷりのパイナップル、モモ、砕いた柑橘系の果実が感じられる。スパイシーでクリーミーなノートとともに、グースベリーが香る素晴らしい余韻。飲み頃は今から 2025 年。 92 点 「ワインスペクテーター 2010.11.30」			

シュロス リーザー(トーマス ハーク)とフリッツ ハーク(オリヴァー ハーク)のブラウネベルガー 兄弟飲み比べ

ブラウネベルガー ユッファー ゾンネンウーア アウスレーゼ ゴルトカプセル			
KA-331 2006 Brauneberger Juffer-Sonnenuhr Auslese Goldkapsel AP8 375ml		¥5,460	
《白》【極甘口】	生産者:シュロス リーザー	葡萄品種:リースリング	残留糖度:143. 6g/l 酸度:7. 6g/l (本体価格 ¥5,200)
125 エクスレ度あります。非常に丸いボディ、果実の甘さがしっかりと感じられ、ミネラル、酸のとげとげしさを包んでいます。エクスレ度としてはベレーンアウスレーゼクラスですが満足出来ず、アウスレーゼのトーンだと考えアウスレーゼ ゴールドカプセルとしてリリースしました。 「インターナショナルワインセラー136」(AP 指定無し・フルサイズ、ポイントのみ)で 91 点。			

ブラウネベルガー ユッファー ゾンネンウーア アウスレーゼ			
K-717 2006 Brauneberger Juffer-Sonnenuhr Auslese AP10		¥8,400 (本体価格 ¥8,000)	
《白》【極甘口】	生産者:フリッツ ハーク	葡萄品種:リースリング	残留糖度:132. 6g/l 酸度:7. 5g/l
ボリュームがあってより力強い果実味、風味が広がり立体的な構成があります。ドイツ国内分は予約で完売。入手困難なワインです。 '06 年 AP10 が、「ワインスペクテーター2008.4.30」で 93 点、「インターナショナルワインセラー136」で 94 点。			
淡いゴールデンイエロー。ネクタリン、ミンスミート、松の実の控えめなアロマ。深みがあるがデリケートで、ジューシーな桃のネクターのフレイバーと、繊細な酸が完璧に近いバランスを見せている。クリーミーなバニラカスタード、クローブ、そして塩っぽいミネラルが混ざり合い、非常に長い余韻まで続く。 94 点 「インターナショナルワインセラー136」			

シュロス リーザー ファンに贈る、トーマスのファースト ヴィンテージのマグナム サイズ

リーザー ニーダーベルク ヘルデン アウスレーゼ			
K-985 1993 Lieser Niederberg Helden Auslese ★		1500ml ¥31,500 (本体価格 ¥30,000)	
《白》【甘口】	生産者:フリッツ ハーク	葡萄品種:リースリング	残留糖度:84. 1g/l 酸度:8. 8g/l
'93 年はトーマス ハークがシュロス リーザーを興した翌年に当たります。記念すべき年の、大変稀少なアウスレーゼ ★のマグナムボトルです。			



☆ 何故、森本にとってリーザーは特別の存在、憧れとなったのか？

私(森本)が稲葉に入社することが決まり、入社までの間の勉強として、稲葉のリスト(2004年版)を渡されたのですが、そのときの表紙がシュロス リーザーでした。「新入社員でも、表紙の生産者くらいは最低でも覚えておかないと…」と思い、先輩にあれこれ尋ねたことを覚えています。そのときに、シュロス リーザーの当主トーマス ハークの生き方が、まさに男が憧れる(私だけかもしれませんが)サクセスストーリーのように感じ、私にとって、最初に強い興味を持った生産者となりました。フリッツ ハークは、モーゼルの最高峰の生産者です。その長男に生まれ、ワイン大学を卒業するとともにいきなり醸造所の責任者を任せられるほどの才能があれば、当然、自分の家を継ぐと考えるのが一般的だと思います。そこをあえて、無名の廃れたワインゲートに就職し、将来のための修行ではなく、そのオーナーになる。そこに私は惹かれました。

正直、設備はボロボロで、それを修繕しながらの苦労の多いスタートだったようですが、振り返ってみると、再スタートからわずか6年で、ドイツの一流の生産者のみが加入することが許される組合 V.D.P.に加盟。そして、今ではワインガイド「ゴーミヨ」でも4つ房を最速のスピードで獲得し、次の5つ房(最高評価)はシュロス リーザーではないかと言われるほどのモーゼルトップクラスの存在となっています。因みに、V.D.P.に加盟する前年の97年に、トーマスはこのワインゲート(お城以外)を買い取っています。



☆ トーマス ハークは、どうして父の後を継いで「フリッツ ハーク」に入らず、ぼろぼろの設備のシュロス リーザーでワイン造りを始めたのか？

そして、ついに私(森本)が最も聞きたいことであった、実家を継がなかったことについて聞いてみました。

その答えは、「すでに名声を得ているワインゲートではなく、ゼロの状態から自分の力を試したい、そして、父が現役でまだバリバリ働いている中で補助的なポジションではなく、自分が先頭に立ってワインゲートを発展させていきたい…」ではなく、「家族を養うため！」だそうです。在学中に結婚したトーマスとしては、少しでもはやく働きたかったようです。在学中から別のワインゲートで働いていたことも、修行のためというよりは、生活のためと考えても話はつながり

ます。私が予想していたような自分の家を超えてみせるといったいわば邪念のようなものは一切無い、とても自然体な姿に、思わず納得させられてしまいます。ただ、ワインの説明をするときだけは、おっとりとした雰囲気の中にも、その場が独特の緊張感に包まれる迫力があり、そこにトップ生産者に駆け上がる凄みを感じました。



☆ リーザーの'08年は、V.D.P.のオークションでも高い評価を得たが、'09年の出来はどうなのか？

2009年は非常に出来がよく、2008年に比べると、すべての点で優れたヴィンテージとなったそうです。ただ、収穫量は15%下がってしまいました。試飲すると、下のクラスからして2008年とは別物のスケール感。特に甘味の感じ方が自然で心地よい印象を受けました。私は2008年の酸がきりっとしているドライな味わいも好きでしたが、2009年はストレートに旨い！

ちなみに、シュロス リーザーの2008年はV.D.P.のオークションで高い評価を得た年でした。最終落札価格のアップ率やヴィンテージの特徴を最も引き出している生産者として、シュペートレーゼ GKは、なんと価格が150%もアップ。J.J.プリュムを超える落札価格がつかました。そんな2008年のリーザーを超えるヴィンテージとして、トーマス自身は2009年を高く評価しています。



☆ '09年のQ.b.A.とカビネットのラベルは、どこが変わったのか？それは何故？

こちらの画像は、2009年のリーザーのボトルですが、よく見ると、シュロス リーザーの下に、トーマス ハークと明記されています。

これはアメリカからの依頼で、実際にワインを造った人の名があるほうが、ワインのバックグラウンドが分かってよいということからのようですが、私達もまったく同じ考えを持ったため、その場で同じようにラベルにトーマスの名前を入れてもらうようお願いしました。2009年のQ.b.A.、カビネットはすでにこのラベルに変わっています。

☆ 今回ご紹介のワインを選んだ理由は？

リーザーファンの私のおすすめは、現在入荷してきている2009年のQ.b.A.とカビネットです(K-718, 719)。まず、今すぐ飲んで美味しい状態であること。また天然酵母のためか、味の表現が豊かで、口に含むととてもソフトで染み渡る印象を受けます。シュロス リーザーでは、ヴィンテージを表現したいという観点から、発酵させにくいトロッケン以外、Q.b.A.クラスからすべて、エレガントな一級品に仕上げるには大変手間隙のかかる天然酵母のみで発酵を行っています。これはトーマスの譲れないこだわりであり、リーザーの特徴でもあります。

次に、ブラウネベルガーの飲み比べ(KA-331, K717)。

フリッツ ハークの代名詞ブラウネベルガー ユッファー ゾンネンウーアですが、ヴィルヘルムが引退する際に、一部をトーマスに譲っています。弟であるオリヴァー(フリッツ ハークの現在の当主)との比較試飲も面白い飲み方です。

高額ですが、ファンにはたまらないワインとして、スペシャルなワインのご紹介です(K985)。

これは、トーマスがシュロス リーザーに入った翌年のヴィンテージですが、一からワインを造った実質ファースト ヴィンテージに当たります。サイズは、なんとマグナム(1500ml)！！ドイツのマグナムボトルは、すらっとした形のまま大きくなっているのが特徴的です。味わいは、熟成したリースリング特有の熟成香もすこし出始めていますが、まだフレッシュさもあり、力強く、若々しさを感じます。今飲んでいただいても美味しいので、ワイン会などで活躍すること間違いなし。しかし、もしシュロス リーザーの更なる発展を期待して栓を開けられない状態に陥ったとしても、ただでさえ長期熟成するドイツワインをさらに長く持たせることができるのがマグナムボトルなので、何時まででもワインは待ってくれます。

